

第5回事例研究

「自治体現場の最前線に学ぶ」 市民とのリスクコミュニケーション

～北九州市のPCB処理施設建設に向けた取り組み～

1. 講師 北九州市環境局産業政策室 主幹 入江 隆司 さん
2. 対象者 市町村職員で希望するもの 事例紹介：定員200名
意見交換：20名程度
事例紹介は講演会形式で行います。
意見交換は事前申込み者を対象に、場所を移して実施します。
3. 実施日 平成15年11月11日(火) 事例紹介：午後2時～3時45分まで
意見交換：午後4時～5時まで
4. 会場 (財)大阪府市町村振興協会マッセ OSAKA 5階
事例紹介：映像研修室
意見交換：第3研修室

5. 内容

近年、原子力発電所やごみ処理施設などの施設を建設する場合、住民から「迷惑施設」として反対運動が行われる可能性があります(このような現象をNIMBYという)。このような状況下で建設を進めていくためには、地元住民と同じ情報を共有し、共に考え、共に判断するための「リスクコミュニケーション」が重要となってきます。

北九州市では2001年にPCB(ポリ塩化ビフェニル)を無害化处理する拠点施設建設の受け入れを全国の自治体で初めて決定しました。PCBはかつて北九州市で起きたカネミ油症事件の原因にもなった物質で、国から建設打診があった当初は「迷惑施設」とみる市民も少なくありませんでした。しかし、市は「リスクコミュニケーション」に取り組み、地球規模の環境保全への意義を説明し、施設受け入れの理解を市民から得ることができました。

今回の講演では、このようなPCB処理施設を受け入れた北九州市の取り組みと、どのように住民との対話を進め、信頼を得ることができたのかをお話いただきます。

6. 申込み方法

お申込みは各市町村研修担当課にお願いします。

(担当：マッセ O S A K A 研究課)